

実験動物管理システムの紹介

○立部 誉、渡邊丈紘、瀬戸山健太郎

鹿児島大学 先端科学研究推進センター 動物管理・小動物研究推進部門

1.導入目的

鹿児島大学先端科学研究推進センター動物管理・小動物研究推進部門では、動物が常時 4,000 頭ほど、その動物を飼育・実験する利用者が 400 人ほど存在しており、これらの登録・管理・各種申請などを紙媒体で管理するには効率が悪く、過去の記録も検索しにくい。匹数の管理においては、エクセルファイルに直接手入力している状況であった。そこで、業務の効率化および利用者の利便性の向上を目的に、今回紹介する実験動物管理システムを導入したので報告する。

2.システム概要

システムは、株式会社ファインシステムズより 2019 年に導入した。

サーバー機 1 台（サーバー機内にシステムが構築されている）、無停電電源装置 1 台で構成されており、リモート操作をするための回線開通工事が必要であった。

サーバーはキャンパスネットに接続しており、学内のキャンパスネットに接続している PC からアクセス可能とした。学外からのアクセスは不可能とした。

3.システム機能と効率化

機能は下記に一部を記載するが、非常に様々な機能がある。

実験計画書の審査・登録、実験計画書の閲覧、動物搬入・搬出申請、搬入搬出履歴の確認、入荷リストの作成、ケージラベル作成、動物発注リストの作成、動物在庫確認、実験室・実験機器の予約、利用者登録、利用経費算出、利用経費請求、各種集計、システム内アナウンス、単価等のマスタ設定など。

上記機能により、効率化できた内容を一部下記する。

- ・システムを通して、利用者および大学事務と情報共有が可能になる
- ・紙媒体での申請・提供が不要になる
- ・匹数や請求料金が自動計算可能になる
- ・実験室および機器の予約（確認含む）が自室からでき、実験の都合がつけやすくなる
- ・入力履歴が残るため、過去データの参照が容易になる

4.導入後感想

多機能がゆえに、初見で使いこなすことは難しく、導入当初は利用者の誤登録も多く苦勞もしたが、全体でみると、作業効率は格段に良くなり、利用者の利便性も向上した。結論としては導入して正解だったと考えている。